

第9回長野県安曇野地域における公共交通システムの構築のための検討会 会議概要

1	委員会名	長野県安曇野地域における公共交通システムの構築のための検討会
2	日時	平成19年8月6日(月) 午後1時30分～2時40分
3	会場	堀金総合支所 301号会議室
4	出席者	奥山委員、三村委員(代)池田委員、小林忠由委員(代)藤本委員、小岩井委員、耳塚委員、樋口委員、甕委員、尾台委員、小平委員、小林忠孝委員、米倉委員、斉藤委員、古岩井委員(代)勝家委員、宮崎委員、曲淵委員、黒岩(豊)委員、土肥委員、堀田委員、三澤委員(代)高橋委員、小林善明委員、上手委員、土井委員
5	国出席者(委員以外)	石崎首席運輸企画専門官、皆川運輸企画専門官
	市出席者(委員以外)	二木企画政策課長、猿田課長補佐、上條係長、中山主事
6	公開・非公開の別	公開
7	記者	5人
8	一般傍聴	2人
9	会議概要作成年月日	平成19年8月27日

協 議 事 項 等

1 会議の概要

- (1) 開会 (石崎首席運輸企画専門官)
- (2) 挨拶 (奥山教授)
- (3) 議題 (事務局)
 1. 愛称の決定について
 2. オープニングセレモニーについて
 3. その他
- (4) 閉会 (石崎首席運輸企画専門官)

2 協議概要

1. 愛称の決定について(事務局より説明)・・・資料1、資料2、資料3
 <資料1「デマンド交通システム愛称募集の集計結果」 事前配布
 資料2「全国の導入地域の愛称名」 事前配布
 資料3「デマンド交通システム愛称名事前推薦状況 >

a) これまでの愛称募集作業の経過説明・報告がされる。

- ・6月末に65歳以上の高齢者もしくは高校生がいる世帯に郵送した資料や、6月号の広報等を通じて、7月20日まで愛称を募集した。
- ・全体では1,811件の応募があり、愛称数は1,263件であった。
- ・キーワードごとに上位20位までを集計した。
- ・その中から委員の皆様事前に愛称を推薦していただいたところ、延べ61の提案をいただいた。
- ・「あづみの」など安曇野に関わるもの、「あづみん」という言葉に関わるもの、堀金地域に既存の「うららカー」に関わるもの、「ふれあい」という言葉の入るものが大きなまとまりであり、その他個別に推薦していただいたものもある。
- ・簡素で呼びやすく、このシステムや地域の特徴を捉えているかどうか選考のポイントとなる。また、安曇野の平仮名標記は「あづみの」であるので、「す」に濁点ではなく「つ」に濁点の方が実情に合っていると思われる。
- ・デマンド交通システムを導入している全国32市町村では、合併前を含む茨城県石岡市を除く全ての地域で何らかの愛称を付けている。

座 長：まず資料1で取りまとめられた応募結果が報告されました。資料2は、石岡市を除く32

地域で使われている名称の一覧です。資料3が、各委員の方々から事前に投票していただいた愛称名の集計ですが、大きく四つの候補があるのではなかろうかという結果になりました。一つは地域名である「あづみの」という言葉で作る名称、二つ目は「あづみん」という名称、3番目が既存の「うらら」という名称、最後が「ふれあい」という名称です。まずはもう一度、この中からということで皆様方の意向を確認させていただきたいと思っております。当然それ以外でも、これはというものがあれば、この場でご推薦いただければと思っています。

各委員の方々の中で、考えがありましたらどうぞ。

樋口委員：今回私ども社協の方で運営の一翼を担わせていただくわけですが、実は社協の愛称が「あづみん」ということであります。願わくばこのシステムの愛称も「あづみん」にしていたらと思っております。

座長：その他に何か。それぞれお考えがあろうかと思いますが。

小岩井委員：堀金で既存のデマンド交通システムの名称が「うららカー」ということで、それがある程度浸透しています。「あづみの」は安曇野市としての一体感をということでお考えになったのですが、票はそれほど伸びていないようにも思います。「うらら」を尊重しても良い気がします。

小林忠孝委員：今現在堀金で取り入れていただいている同システムが「うららカー」という名称です。先に取り入れたという事実を尊重し、新たな愛称ではなくそのまま使用するというように思います。

宮崎委員：愛称は市民に対して募集をかけ、その結果多かったものが「あづみの」「あづみん」です。それを尊重し、上位の中から選ぶということでなければ、何のために募集したのかということになります。個人的には「あづみの」「あづみん」のどちらかにすることが、市民に対して一番説明がつく選択だと思っております。

斉藤委員：皆さんいろいろな意見があるかと思いますが、折角大勢の方から募集をしたのだからやはり上位のものから選ぶのが良いと思います。新しく大きな安曇野市になって、これからどうするかといった場合、大勢から意見を聴取しながら決めていけば問題がない。「あづみの」や、先程社協さんからも出ました「あづみん」を主体に考えていけば良いと思います。

b) 多数決にて愛称が決定される。

座長：今日委員の方々からは「ふれあい」が出ませんでしたので削らせていただきます。「あづみの」と「あづみん」が愛称募集の結果でも1位、2位だったということで、それらを押す声と、既存の「うらら」に親しみがあるのではなかろうかという声と、意向としては大きく2つありました。意向の多数決を取りたいと思いますので、挙手をお願いします。

「あづみの」「あづみん」という名称で決定すべきとの意見の方が多数でした。それではこのどちらかに決定ということで、必ずどちらかに手を挙げていただきますようお願いいたします。

・ 多数決の結果、「あづみの」が9票、「あづみん」が11票であった。

座長：「あづみん」で決定ということで宜しいでしょうか。

委員：異議なし。

座 長：それでは議題1の「長野県安曇野地域における公共交通システム」愛称は「あづみん」で決定いたします。

事務局：「あづみん」の後ろに「号」や「カー」といった言葉を付けるべきかも議論していただければと思います。

座 長：まず後ろに何も付けず「あづみん」そのままのケース、「あづみん号」というケース、「あづみんカー」というケースの3パターンあるかと思いますが、皆様から意見をお聞きしたいと思います。好き嫌いもあるでしょうし、挙手でよろしいでしょうか。

多数決で半数を超えましたので、「あづみん」の後に何も付けないということで愛称を正式に決定させていただきたいと思います。

- ・「あづみん」を考えた方が全体の中で13人いるので、事務局で抽選を行い、選ばれた1名の方のお名前を市の広報にて発表する。

2. 試験運行案（定時定路線時刻表等）について（事務局より説明）

… 資料4、資料5、資料6

<資料4「定時定路線時刻表（案）」

資料5「スクールバス兼定時定路線時刻表（案）」

資料6「デマンド運行における車両配車イメージ」>

a) 定時定路線・スクールバス兼定時定路線時刻表案について

- ・現在、運行事業者にも確認作業をお願いしている。
- ・アルプス大橋の開通に伴い、田沢駅周辺の渋滞が緩和されたことを鑑み、前回提示した定時定路線（案）から若干変更させていただいた点がある。
- ・8月22日に発行される広報に掲載される時刻表（案）が、今回の試行運行の最終的な時刻表となるので、それまでには更に変更があるということをご理解いただきたい。
- ・スクールバスについて現状の運行状況を調べたところ、利用される子供の数が、市が購入し事業者にお貸しする予定の15人乗りワゴン車の定員を超える可能性が出てきている。よって、6時台、7時台、下校時刻に運行するものは、市所有の白ナンバーの車両を使ったスクールバスの運行を考えている。それ以降の3便については、市が購入してお貸しする車両を使って兼用の運行をする予定である。

b) デマンド運行における車両配車イメージについて

- ・これまでの説明の中では、図中⑬、⑭の車両について「セダンまたはワゴン車両」という表示をしてきたが、運行事業者との打ち合わせで⑬はワゴン車両、⑭はセダン車両ということになった。
- ・⑨、⑩は今までセダン車両という表示をしてきたが、ワゴン車両で試行運行を開始したいと考えている。
- ・運行車両の借上げ時間一覧表も、ここに記載したものを基本にしながら事業者と相談の上調整を図っていききたい。

座 長：資料4については定時定路線の時刻表です。交通渋滞が起こらないような道路の状態になったということも含めて、最終的に更なる変更の可能性もあるということでのご提示でした。大きく変更したのは資料5で、スクールバス兼用の定時定路線については、朝と帰りの最初の便を市の白ナンバーのマイクロバスを使って運行するという事です。当然白ナンバーですので、他の人が乗る可能性もあります。

資料6は車両の最終決定ということで、通常のタクシー車両は⑪、⑫、⑭の三台となりました。今まで明科の⑨、⑩もタクシー車両だったのが、ワゴン車両に変わるというご提案でした。以上が試行運行開始に向けての、事務局からの変更のお知らせでした。何か確認等ありましたらお出しいただきたいと思います。

これらにつきましては、広報等で周知を図っていくということです。
よろしいでしょうか。それではお認めいただいたということで、議題3の方に移っていき
たいと思います。

3. オープニングセレモニーについて（事務局より説明）

- ・日時は9月10日（月）午前10時から、場所は豊科ふれあいホールにて。
- ・検討委員の方々には招待状を発送するので、今から予定をお願いしたい。

座長：事務局よりオープニングセレモニーの日時・場所が示されました。委員の皆様は、ご都合を付けて出席をお願いしたいと思います。詳細は事務局の方で鋭意検討中です。

4. その他について（事務局より）

a) 観光・市外交通について

- ・観光・市外への移動については本年度の検討会において一つの大きな柱となる議題である。
- ・9月10日の午後1時から2時間ほど、国交省や市、事業者、観光協会長、希望される委員の方などで構成する観光ワーキングを開催する予定である。参加希望がある委員を募ったところ、宮崎委員からお申し出をいただいた。

座長：以後の検討会において主要なテーマになります。まず観光については、9月10日午後にワーキングというかたちで動かしていこうということです。市外交通についても、今後開かれる検討会の中で事務局としての一つの方向性を提示しながら検討を進めていきたいと思っています。それに先立って、今日ご出席の委員の方々で何かお考えや、進め方の要望などがありましたらお出しいただければと思います。

私としましては、交通に関わる検討会ですので、具体的に観光の交通をどうするのかという議論が先ずあるべきなのですが、そうではなくて、安曇野の観光の現状に関する情報やデータの整理を徹底的にさせていただこうと思っています。特にこの街を中心とした山岳観光を含め、観光の現状がどうなっているのか。昨年度かなり大きな調査もさせていただいております。観光客の動線、観光の地域外との連携、観光情報の発信の仕方、このあたりの重要な要素を先ず徹底的に整理をし、その上で可能な範囲で観光に関わる新しい交通のあり方を提案していきたいと考えております。

市外につきましては、この地域にはJR等鉄道動線がしっかりとあります。それらの活用あるいは連携の仕方などを、事務局で整理した上で、どういった方に対して市外交通の充実を図っていくか考えていく予定です。

是非この場でご意見をお出しいただければと思います。

耳塚委員：この検討会が始まって以来私がずっと申し上げていることですが、現在穂高の方で周遊バスが走っています。是非、空のバスを走らせることのないようにしていただきたい。私もタクシー事業者は、燃料費の高騰など将来に対する不安を非常に持っています。観光も重要な部門の一つですが、その点よくお願いしておきたい。

小岩井委員：今までのお話だと、観光と市外交通を分けて考えられているようですが、この地域に来ていただかなければ話にならないわけです。その上で地域の中にどういう交通網があるのか、来るにはどういう方法が良いのか。切り離して考えてはいけないような気がします。例として上田の新幹線です。上田駅から安曇野への路線バスがあります。それに対して安曇野の中での周遊バスの徹底という発想をしないと、地域の中で100円バスがいくら周っていても手ばかりがあるように思います。そのあたりを総合的な交通の視点で考えていかなければと思います。私もタクシー事業者は、観光で営業させていただいている部分があります。去年の集中豪雨の際の登山客の激減という点だけでも影響を受けていますので、一生懸命ご協力させていただきますが、そのあたりのことを考慮していただくワーキングになればと思います。

宮崎委員：ワーキングにはもっと多くの委員の方々が参加を希望されるかと思っていたので意外でした。9月10日に行って、その後のスケジュールはどうなっているのでしょうか。そこで出た意見をこの検討会でどうやって協議していくのかということをもう少し詳しくお聞きしたい。

斉藤委員：乗る車のことばかり考えていてもどうにもなりません。今後、観光客にどのように安曇野に来ていただくかということがポイントになると思います。ただJRに乗ってきて、降りてというのではなく、行政の立場で、穂高の天然温泉など安曇野の良さを全国に発信していくことが重要ではないでしょうか。ただ観光で来た人をどういう風にするかということでは、車が空のまま走っているという結果にもなってしまうと思います。行政の立場で観光のPRをするのかしないのかが視点となってくると思います。

事務局：スケジュールに関して事務局の方で考えている段取りですが、先ず観光ワーキングの中で、市の観光担当も含めて議論をし、課題を整理して、10月に予定しています次回検討会以降、全体の中で検討をお願いしたいと思っています。また、私どものこの公共交通検討会は今年度一杯ですが、実際観光という別の切り口もありますので、機能分担を図りながら継続性のある話が出来ていけば良いと考えています。

座長：前にもお話しましたが、単年度予算ということですので、年度ごと切られて検討を進めていかなければなりません。まだ事業者選定も終わっておらず、やっと動き出すということで、その時点からワーキングを重ねつつ、この検討会で議論を深めていきたいという流れです。先程から観光に関していろいろな意見をいただいております。どのように市内に来ていただくのか、ただ車を廻しているだけでは駄目だなど、重々事務局も判っていることだろうと思います。日本も「Visit Japan」ということで観光振興を挙げながら、本当の意味で観光を地域振興に結びつけるというのがなかなか上手くいっておりません。そういった意味で、行政だけでは駄目でしょうし、奇をてらったやり方ではなく王道を進んでいかなければならないと思っています。昨年度の調査で、安曇野の特徴は非常にリピーターが多いということだと思いました。矢張りビジネスというか持続的に広めていかなければならないので、リピーターを大事にすることが最も重要です。そういったことを整理し、何が出来るか考えることを、今後の検討会の中心に据えていきたいと思っています。

宮崎委員：位置付けが良く判らないのですが、これは交通が本目的ではなく、観光を活性化するためにデマンド交通を一つの手段として考えるということでしょうか。

座長：この検討会の一つの柱として、公共交通の柱をどう作り、そこで観光を振興するような交通体系というのはどんなものなのか考えるという筋道が決まっています。観光の交通というよりは、観光をどうやれば地域の柱に据えていけるのか考えた方が良いのではないかと。その中でそれを刺激するような交通はどんなものか考えるというのが私の意見です。

耳塚委員：先程もお話が出ましたが、来てもらった後の受け皿を作ることが一番だと思います。それはこの公共交通検討会で考えることではなく、寧ろ安曇野市の観光協会でも検討してもらいたいことではないでしょうか。いかにして受け皿を充実していくかを最初に検討してもらって、そこに私ども交通事業者が関わっていくということだと思っているので、後先が違ような気がします。観光協会も発足したばかりで上手くいっているのか判りませんが、まず観光協会の中をまとめることが必要だと思います。

事務局：安曇野市は国交省から「観光実践プラン」の認定をいただいた経過があります。いろいろな切り口があると思いますが、この検討会でどこまで議論出来るか、連携を取りながら進めていければと思っています。

米倉委員：この会議は本来公共交通の会議なので、それを考えれば良いことだと思います。観光客をいかに呼ぶかという話もありますが、私が関わっている県内外の様々な範囲では、安曇野という地名はもうかなり全国区になっています。ここまでになったのはやはり、行政の観光担当やいろいろな人たちが県外に向かって相当なアピールをしてきたからだと思います。集客するにはどうすれば良いかというのは、相当以前から一生懸命やってきたことです。まるっきりゼロからのスタートみたいな言い方ではなく、アピールをこれだけ行ってきたが、ここの部分が足りないということを考えるのであればそれはそれで良いのですが。それも観光協会や行政の観光課が主体となると思います。それを考えてもらった上で我々が、来た人たちの移動手段をどうするか考えていけばまとまってくるのではないのでしょうか。

座長：今年の重点テーマが観光と市外ということです。域内公共交通については、昨年から今年にかけて検討したデマンドが9月10日から「あづみん」という愛称で動き出すという一つの成果を生んでいます。どういう状況でどういう手立てを交通という切り口でやっているのかということを確認出来るくらい、ワーキングでしっかりと情報提供をして、後数回開かれる検討会で皆様方にご提示をすることをお約束させていただきたい。

甕委員：7月22日に開催された豊科地域審議会で、この公共交通システムに対していくつか意見をいただきました。先ず共通エリアについて見直しをしてほしいということです。共通エリアの範囲を線の内側に限定するのではなく、出来れば図中の赤い線の外側の道の両側にまで広げてほしいとのことです。具体的には、豊科踏入地域にある豊科北小学校の道路を挟んだ右側に公民館がありまして、大きな駐車場が取れる場所ですが、そこも共通エリアに含めていただきたいのです。北小学校はエリア内だが反対側は違うというのではなく、もう少し柔軟に対応していただきたいという意見でした。もう一つは、スワンガーデン安曇野や安曇野スイス村といった、そこだけを目的に行く人がいるような場所も、共通エリアに含めていただきたいという意見が出ました。

座長：そういった詳細な微調整については、この検討会というよりは、運行が始まってから運行協議会というものを開き、その場で逐一意見を汲んだ形で変更していくことになると思います。

事務局：実際には事業者等々でご相談させていただく中で、いろいろなルール等も再確認させていただきますが、こちらの検討会以外に社協でも運行委員会を作ります。その中で関係する事業者も含めて議論させていただくようになっていきますので、そこで具体的な相談をさせていただくようになっていくと思います。

小平委員：登録のことについてお聞きします。登録用紙に身体障害者手帳や療育手帳所持について記入する欄がありますが、ここに丸をして登録すれば自動的にその人が障害者だと認識され、100円で利用できるようになるのでしょうか。

事務局：システムの登録上は、いただいた情報を運転手に伝えるようなシステムになっています。ただ実際には、ケースバイケースで、いろいろなご相談が出てくるのではと想定しているところです。料金は前回の検討会や公共交通会議で「手帳をお持ちの方で、提示していただければ100円」ということになっております。ただ、車椅子のまま乗ることが出来るかという問い合わせをよくいただきますが、残念ですが今の車は車椅子対応になっておりませんので、乗ったままではご利用いただけないということです。自分だけでは乗り降り出来ない方は、介助者に付いていただかなくてはご利用いただけないという実態はございますが、可能な範囲の中で対応させていただいています。

宮崎委員：資料1に「利用登録票の件数5,287件」とありましたが、これは人数なのか世帯数なのか。もし人数ということであれば非常に少ないという気がします。

事務局 : 7月26日現在 5,287 件という数字は、いただいた登録用紙の枚数ですので世帯数です。実際にはお一人の登録もあれば、欄に書ききれないほど書いていただいたケースもあります。うららカーに登録していただいてあった堀金地域の方は、変更がなければ改めて登録する必要はなくそのまま引き継ぎますが、その様な方が 3,800 人ほどいらっしゃいます。加えて毎日のように何件かずつ追加で登録をいただいております。引き続き広報で「利用登録は無料で、随時受け付けている」という PR はさせていただく予定です。

宮崎委員 : 試行運行については、多くの方が利用することで改善点などが出てくるということもあるので、市のホームページ等での広報は引き続きお願いしたいと思います。

尾台委員 : 今年度の課題は観光と市外交通ということですが、9月10日から始まるデマンド試行運行についての検証はいつどのような形で行なうのでしょうか。また、利用者からの意見についてはどのように取り計らわれるのでしょうか。

座 長 : 検証については委員会の度に、報告と検討を行ないます。また、利用者からの声は、オペレーターや市に来るものについては全て紙に残すようになっています。固有名詞等々問題のある箇所は処理させていただきませんが、出来るだけ生の声に近い形で委員の皆様へ情報提供させていただこうと思っています。

事務局 : 現在国交省等でされている調査に関するのですが、デマンドに関するアンケートを試行期間中の9月から3月までの間に3回程度実施をする予定ですし、定時定路線のバスについても同様です。また、地域住民の皆様に対する意向調査などを具体的にさせていただく予定です。

座 長 : 疑問あるいは情報等ありましたら、事務局の方に申し出ていただければ、出来る限り対応させていただこうと思っていますので、よろしく願いいたします。また、検討の中心は観光と市外交通ですが、デマンド試行運行の内容についても逐一詳細な実績調査などさせていただいて、この場に返していくという考えです。他に何かございますか。それでは第9回の検討会として用意していた議題は全て終わりましたので、事務局の方にお返しします。

事務局 : 次回の検討委員会ですが、10月18日(木)、時間と場所は今日と同じということで開催したいと考えております。ご出席をよろしくお願いいたします。

座 長 : 本日は長時間有難うございました。これで第9回検討委員会を終了させていただきたいと思います。また、9月10日の午前10時からオープニングセレモニーに出席いただきますようお願いいたします。ご苦勞様でございました。